

## 病体のきのこ採集記

高橋 勝雄

私は半年近くも病院のベッドで過ごしました。そして退院することができましたが、体重は子ども並の 40kg 弱、杖をつき、わずかな歩行が可能でした。

そんな私が我が家に着き妻の苦勞を知るのです。介護用ベッド、手摺等の搬入のためには、部屋、庭... の片付けや整理に大変な勞力であったと思われま。ご苦勞様。

部屋のベッドに上り、私は病院で夢にまで見た「きのこ」...。カシダケのことを思い立ち、「きのこの採集日誌」のノートを捜し出しました。

H26・27年。3月にはショーロ、4月もショーロ、カシダケが何度も採集されておりました。

カシダケは降雨の2、3日までがベストであります。

私は妻に相談を持ちかけました。

4月上旬、きのこ採りに是非とも行きたい。だがこの体では独りでは不可能。同伴を願ったのです（実は、私の妻は毎日病院まで洗濯物や書類を持参しており、足が悪くなっておりました）。

説得成功...。4月6日実行。久しぶり（10月以来）の電車に乗って駅よりタクシー、目的地まで 15 分。今日の場所は大樹の多い足場のよい処に向かう。妻は自然林は初めてなのか杉以外はその名を知る由もありませんでした。

林道より毎年きのこが出生する白樫の巨

木を目指して歩みを進めます。

きのこは不思議なもので、絡む樹と全く絡まない樹があります。白樫、桜、小檜が立ち並ぶ平坦な処は、落ち葉が堆く積もっておりました。その中にはピンク、赤、紫、緑等のカシダケが数多く出生しておりました。また、落ち葉を掻き分けると坊主頭の若菌が顔を出しているのです。

この場所より程近くに、一番の本命の場所があります。両側は小高く、下は落ち葉に埋もれ、毎年たくさんの採集ができます。しかも、他の場所の菌と異なり、大きさ、重さ、厚みは群を抜いております。色はピンク、紫です。

私は腰を落ち葉に落とし、夢中で落ち葉を掻き分け、きのこを掘り起こし、妻に手渡ししておりました...

しかし1時間以上の作業が病体の体力を消耗させ、私の体力は限界となってしまいました。目の前にはまだたくさんのきのこがあるかもしれませんが、何時の間にか手は動きを止めておりました。すると妻は、もう終わりにしよう、と手を差し伸べるのです。

私は妻の手と杖をつき疲れた身にムチを打ち、やっと立ち上がることができました。

念願の叶った病体のきのこ採り。自然の恵みに感謝...